

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	34	学校名	関有知高等学校
------	----	-----	---------

学校教育目標 (教育方針)	生徒一人一人の「生きる力」を育むため、個々の能力や長所を伸ばし、優れた創造性と豊かな社会性を持った逞しく実践力のある心豊かな人間を育み、よき地域社会人の育成を目指す。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の暮らしと仕事、文化を守り、よき地域社会人として社会に貢献できる生徒</li> <li>・ 基礎力を身に付け、優れた創造性と豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協働できる生徒</li> <li>・ SDGsの視点に立ち、広い視野から思いやりの心を持って物事を考え、社会や地域の抱える課題の解決に、積極的かつ継続的に取り組もうとする生徒</li> </ul>	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒一人一人の個性や長所を伸ばし、深い学びを実現するための、基礎力の習得を重視したカリキュラムの編成</li> <li>・ ICT機器を活用した授業、習熟度別授業、少人数授業・ティームティーチング等の多様な授業形態及び評価を工夫した、個々に応じた細かな指導の実施</li> <li>・ 地域の暮らしや仕事に親しみ、地域文化の素晴らしさを実感するとともに、SDGsの視点から地域や社会の課題を考える体験の実施</li> </ul>	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の暮らしや仕事、文化に興味を持ち、将来、地域の暮らしと仕事、文化を守り、よき地域社会人として地域の課題を解決していきたいと考える生徒</li> <li>・ 基礎力をしっかりと身に付け、自らその上にさらに深く学ぶことで、自身の可能性を伸ばし、進路目標を実現したいと考える生徒</li> <li>・ 思いやりの心とコミュニケーション能力を持ち、社会で他者とよりよく関わり、社会貢献をしたいと考える生徒</li> </ul>	
学校の抱える課題	穏やかで心優しい生徒が多いものの、学業が苦手な計画的な学習習慣が定着していない生徒も多い。また、あいさつはできる半面、自己表現やコミュニケーションが苦手であったり、自己肯定感が低いため身だしなみを含めた言動に緩さが見られる生徒もいる。		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	学校全体の課題を解決するため、職員が丸となった組織的な活動の徹底をするとともに、総合的な探究の時間や学校行事を通して生徒の生きる力を育むことで、「よき地域社会人」としての規範意識の醸成を図ります。	
	学習指導	学び直しの授業の充実や補助教材の活用を通して、生徒の学習習慣と基礎学力の定着を促します。また、教員相互による授業公開の充実や授業評価アンケートをはじめとする各種データを活用し、現状を客観的に把握したうえで授業改善や教育課程の改善を継続的に実施します。	
	生徒指導	生徒の多様性を認めながら、集団生活に必要な規範意識や倫理観の育成を図ると共に、学校生活を通して多様な人との繋がりや関わりの中で、お互いを認め支え合いより良く生きる力を身につかせます。また、自他の命を大切にする心を育むため、いじめの未然防止と生活安全の取組の充実を図ります。	
進路指導	生徒が主体的に進路を選択できる能力を育成するため、体験的活動を多く取り入れることでニーズに応じた進路学習を提供します。また、キャリアプランナーをはじめ関市や地域の外部団体との連携を通じ、望ましい勤労観・職業観を育成していきます。		

年度目標			
領域分野	3つの方針（スクール・リーダー）・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学校経営	総合的な探究の時間を通じて、地域の人々とつながることにより、コミュニケーション能力の向上を図ります。	1	施策Ⅰ-1
	教員の組織的・継続的な授業改善を推進することで、生徒の基礎学力を定着させ、社会で生きる学力の育成を図ります。	8	施策Ⅱ-8
	地域の大学等専門機関や職域との連携により、生徒の将来に向けた興味喚起を引き出す魅力ある学校づくりを推進します。	20	施策Ⅳ-20
	教員の長時間勤務や多忙化解消に向け、学校全体で業務の見直しを行うことにより、働き方改革の推進を図ります。	27	施策Ⅳ-27
学習指導	学び直し授業の充実と補助教材の有効活用により、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図ります。	8	施策Ⅱ-8
	よき地域社会人の育成に向け、授業を通じて知識・技能および規律や言動を身に付けさせるため、積極的な授業改善を図ります。	12	施策Ⅱ-12
	生徒のよりよい学びの実現に向け、授業評価アンケート等の分析により、将来を見据えた教育課程の見直しを図ります。	20	施策Ⅳ-20
	協働的な職場環境づくりや教員相互の積極的な授業見学等を醸成するため、教員の資質向上を図るため校内研修の活性化を図ります。	26	施策Ⅳ-26
生徒指導	地域社会で貢献できる生徒の育成に向け、学校生活のあらゆる場面で、身だしなみを含めた規律の徹底を図ります。	1	施策Ⅰ-1
	多様性への理解と偏見や差別のない生活を実現するため、学校の諸活動を通して人権意識の醸成を図ります。	2	施策Ⅰ-2
	挨拶活動での見守りや丁寧な教育相談の実施により、生徒の変化を見逃すことなく、いじめの未然防止と早期発見に努めます。	3	施策Ⅰ-3
	自他の命を大切にすると心と態度の育成を図るため、健康安全教育や防災教育を組織的・計画的に実行します。	19	施策Ⅲ-19
進路指導	具体的な進路目標を明確にするため、生徒の実態に応じた行事の実施により、主体的に進路を決定できる力の育成を図ります。	1	施策Ⅰ-1
	個々の学力にあった課題を提供することで、学習習慣の定着及び創出に向けた、進路教材の見直しを図ります。	8	施策Ⅱ-8
	地域の産業界や関係機関等と緊密な連携による活動を通して、各企業への理解を深めることで、職業観・勤労観を促進します。	13	施策Ⅱ-13
	キャリアプランナーと連携し、企業情報の収集や卒業生の就労状況を紹介することで、より生徒に適した職業教育を推進します。	4	施策Ⅰ-4

年度末評価（自己評価）			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
県のCOREハイスクール事業で取り組んだ関有知マルシェ、関有知モスト大学の実施。	B	○多くの参加者に対応できた接客等の自信と地域産業の魅力発信。（生徒満足度89%） ▲事業担当する教員の負担感の増大。 ○教員自身による客観的な授業見直し。 ▲教員間の相互授業参観の更なる促進。	B
国語、数学、英語で中学校時の復習を取り入れる「学び直し授業」により生徒の基礎学力の定着を図ることで高校授業への移行を容易にした。		○各種事業により生徒の興味関心を引き出した。 ▲生徒自身の更なる自発的な事業参加。	
市や大学、特別支援学校、福祉施設、保育園等と事業連携した他、大学や企業への見学、企業からの業務説明会等を実施。		○学校の実態に則った研修実施による大きな問題行動の減少。 ▲教員の日常的な校務の減少。	
研修主事を中心となり、保護者及び生徒理解、教員自身の性格傾向理解について外部講師を招いた研修を実施。		○教員自身による客観的な授業見直し。 ▲教員間の相互授業参観の更なる促進。	
教科毎に定期的に課題を課し、学習習慣の定着を支援。特に1年生は学習支援アプリを活用して学習習慣の定着を促した。	B	○▲前期における学習時間は2年生で20%増加、1年生で12%減少。 ○1年生の学習支援成果の現れ始め。	B
年2回(6,12月)の生徒による授業評価を行い、フィードバックの際にワークシートを活用して授業課題を明確化したうえで授業改善を実施。		○授業評価アンケートの総合評価が3.83(満点4点)と、非常に高評価。 ▲職員全体へのフィードバックの充実。	
教員の自校評価や、生徒による授業評価アンケート・基礎力診断テストに付属する各種データなどを参考に、数学の教育課程を改善。		○教育課程の評価は概ね良好。 ○生徒の実態を踏まえて教育課程を一部改善。	
生徒理解やクラスづくりに関する職員研修を実施。学級集団の状態を把握するHyperQUの具体的な活用について研修を実施。		○集団理解に役立つ研修を実施。 ○次年度まで見通した研修計画の見直し。 ▲業務多忙の中での職員研修へ負担感。	
全職員で取組む月1回の生徒身だしなみ検査と毎時間、授業担当者が取組む授業開始前の身だしなみ指導を実施。	B	○生徒の88%が規律を守った学校生活を送っている。 ▲一部生徒への遅刻指導。（遅刻前年比29%増）	B
新入生に対する構成的グループエンカウンターの実施。講師を招聘し人権講話を実施。		○生徒の87%が思いやりの気持ちをもち、友人とも良い人間関係が構築。 ▲感情のコントロール法の修得。	
長期休業明けに二者面談を年3回実施。いじめに関する県・学校独自の調査とその後の生徒への関わりを実施。スクールカウンセラーの活用。		○生徒・保護者の悩みに対してスクールカウンセラー等と協力して、組織で対応実施。 ▲多すぎる生徒アンケート調査の精選。	
保健指導及び年3回の命を守る訓練の実施。生徒向け、教員向けの救命講習の他、3年生が講師を務め、防災教育等学校安全研修を実施。		○命の大切さについて学べた。 ▲危機管理対応では、多様な場面を想定した訓練及びレクチャーの必要性。	
進路目標を明確にするため、本校卒業生を講師とした講座や大学見学ツアー、進路別の体験講座等を実施。	A	○具体的な体験による進路決定の促進。 ▲希望進路以外（就職⇔進学）の行事への取組に対する甘さの露見。	A
今年度から学習支援アプリを導入。進んで取り組む生徒については基礎学力の到達度評価が向上。		○学習支援アプリの活用により、家庭学習時間の増加、学習到達度の向上。 ▲取組状況の芳しくない生徒へのサポート。	
職業を知るきっかけを目的に、市と連携した企業見学ツアー、職業探究インタビュー ビジネスプラス展を実施。		○市、企業と連携した生徒のニーズに合った選択のサポート。 ▲求人数が多く資料準備の若干の遅れ。	
キャリアプランナーの活用により、地元企業の求める人材について、詳細な情報を伝えることができ、就職に関しては内定率100%達成。		○就職希望者の内定率100%達成。 ▲企業の求める人物像と生徒の希望企業とのマッチングへの対応。	

### 来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月9日

・関有知マルシェは集客も多く、生徒たちの接客態度からも成功を収めることができた。しかし、担当教員の負担が大きいため負担軽減を図り持続可能な事業とするため業務内容等の見直しを図る。また、働き方改革のためにも各分掌における業務内容の積極的な見直しを図る。  
 ・教育目標を達成するためにも、生徒の変化に応じ総合的に組織した教育計画とするためにも、現状をアンケート等により客観的に把握し、数年先まで見通した教育課程や職員研修が計画できるよう見直しを図る。  
 ・基礎学力の向上を図るために、家庭学習支援の成果と課題を各種データから分析するとともに、本校の生徒が継続的に学習に取り組むことができるよう支援方法の見直しを図る。  
 ・ここ数年は身だしなみを含め、規範意識が育まれつつあるため、教員一丸となり些細な変化を見逃すことのない温かい見守りや、不断の服装指導についても徹底を図る。また、落ち着いた学校生活に向け構成的グループエンカウンターを用いることで人間的な自己成長を促すクラス経営を図る。  
 ・新1、2年生においては学習支援アプリを用いた基礎学力を高めるためのしくみづくりの確立と、新3年生においては進学に対する面談や補習等の個別の指導と就職対策問題集の見直しを図る。

### 学校関係者評価

実施日：令和7年1月28日

・規範意識高く学校生活を送れているようだが、規範を自分たちで作ることや作られた意味を知ることでも大切になってくる。ルール作りに生徒を関わらせてはどうか。  
 ⇒生徒の自発的な活動を推進したい。  
 ・携帯電話やICT端末の活用により関わりが容易になってきたことで、どの組織もアンケートが増加傾向にある。生徒はしっかりと回答できているか。  
 ⇒県のアンケートは携帯電話等で、学校独自は記述により実施しているが、どちらもしっかりと回答できている。本校生徒は記述の方が思いを素直に記載する傾向があるため、学校独自アンケートを大切にしていきたい。  
 ・就職内定率100%を達成しているが、どのようにしたら進路目標にたどり着くことができるかのロールモデルを構築して示せるとよい。  
 ⇒卒業生を招き進路目標達成に向けた取組みなどを語る事業を実施している。今後も継続していきたい。  
 ・まちづくり協議会が実施する活動の中でも、関有知高校生徒との交流会はとても人気である。  
 ・保育園としても生徒が実習に来てくれることで園児と楽しいふれあいができておりたいへんありがたい。  
 ・科学部が実施した地域の生態系を調査研究は、地域の自然や文化について学ぶことができずばらしい。  
 ・ボランティア活動への生徒の積極的な参加はたいへん助かっている。